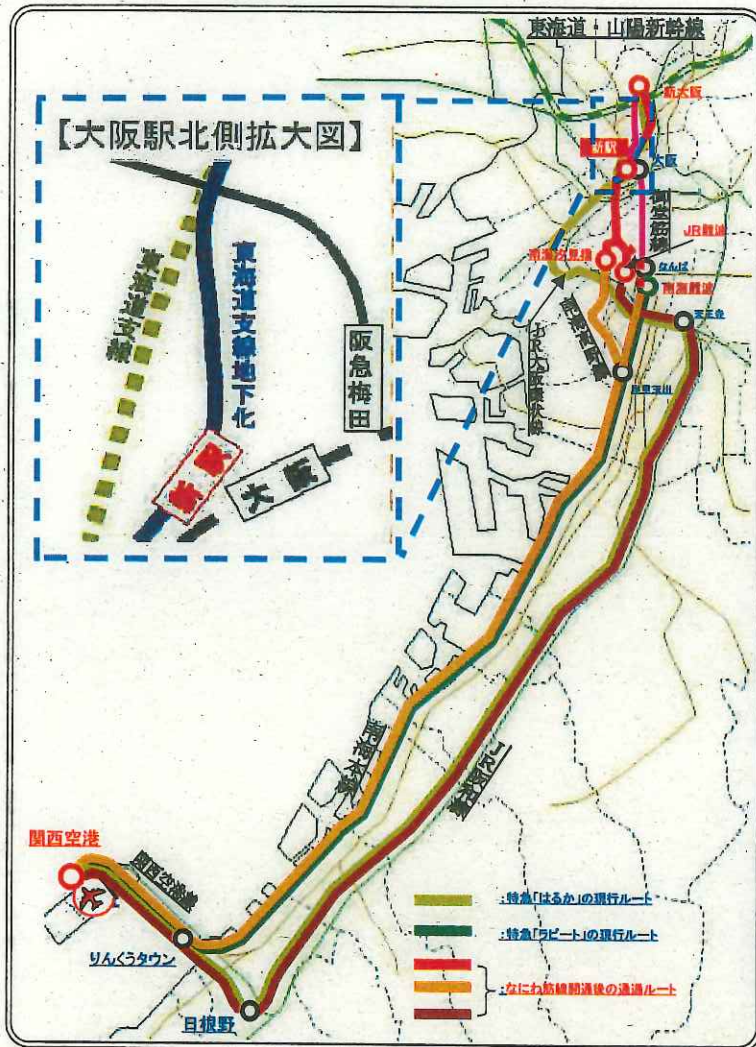


なにわ筋線計画イメージ図



IV. 需要予測・費用便益分析・収支採算性等

【コスト削減等】(基本的試算にコスト削減等の検討結果を反映)
 需要予測については約14万人/日～約21万人/日、費用便益分析については費用便益比(B/C)1.11～1.90、収支採算性については都市鉄道利便増進事業費補助を活用した場合に最短21年目に累積資金収支が黒字転換可能。

ルート	ケース	中間駅の有・無	概算建設費	需要	費用便益比	収支採算性
JR難波・南海難波ルート	なにわ筋線内中間駅ノンストップ	なし	約1,800億円	約15万人 (約1.4万人)	1.90	21年目
	なにわ筋線内全駅停車・中間駅ノンストップ複合	あり	約2,500億円	約21万人 (約1.3万人)	1.74	22年目
JR難波・南海汐見橋ルート	なにわ筋線内中間駅ノンストップ	なし	約2,500億円	約14万人 (約1.3万人)	1.11	30年目以降
	なにわ筋線内全駅停車・中間駅ノンストップ複合	あり	約3,200億円	約18万人 (約1.3万人)	1.11	発散

※需要は 人/日、()内は開空需要を示す(内数)。収支採算性は都市鉄道利便増進事業費補助を活用する場合に整備主体の累積資金収支が黒字転換する年数。

V. 調査のまとめ

需要予測・費用便益分析・収支採算性等のケース別試算を行った全30ケースのうち、性格、費用便益比、収支採算性等を踏まえ、比較的良好な2ケースは以下のとおり。

- ・【コスト削減等】
JR難波・南海難波ルート・なにわ筋線内中間駅ノンストップケース
- ・【コスト削減等】
JR難波・南海難波ルート・なにわ筋線内全駅停車・中間駅ノンストップ複合ケース

今後のなにわ筋線整備に向けたより具体的な検討にあたっては、本調査結果等を踏まえ、なにわ筋線の整備に向けた便益を享受する地域の地方自治体が連携して関係の鉄道事業者等との調整を進め、事業化に向けた運行主体・運行形態等の検討を行い、具体化を目指すことが期待される。